

2017年 千葉県立中央博物館
自然誌シンポジウム

自然史研究におけるDNA研究の役割

2017年5月14日 13:30 -- 16:30

千葉県立中央博物館 講堂

(昆虫DNA研究会との共同事業) 参加費:無料

自然史研究に革命をもたらしたDNAバーコード法をはじめとして、日本列島に暮らす生物の起源を解き明かす分子系統地理学、群集生物学に革命を起こしつつあるギガシーケンサーを用いた研究等が紹介されます。DNAを使った革新的な研究を概観するとともに、どのような研究が今後考えられるのか議論したいと考えています。

神保宇嗣(国立科学博物館)
DNAバーコードとは何か

大場裕一(中部大学・応用生物学)
使えるDNAバーコーディング

倉西良一(千葉県立中央博)
DNAバーコーディングの落とし穴:証拠標本の重要性

東城 幸治(信州大学 学術研究院 理学系)
複雑な日本列島形成史を反映する昆虫類の系統地理研究

宮 正樹(千葉県立中央博)
魚類の環境DNAメタバーコーディング:データ駆動型・発見探索型
アプローチがもたらす新たな展開



20

千葉県立中央博物館